

## 脱炭素社会に向けたカーボンナノチューブの開発と応用 ～発見30周年記念シンポジウム～

カーボンナノチューブは発見以来、世界中で最も注目されている材料の一つであり、近年はエネルギー材料としての期待も大きい。本シンポジウムでは、その興味深い物性に加え、近年の研究開発状況や実用化の進展について、第一線で研究開発を展開されている気鋭の方々にご講演いただく。さらに、脱炭素社会実現に向け、今後の研究開発のための議論の場とする。

【日時】 2021年9月12日（日） 13：30－18：30

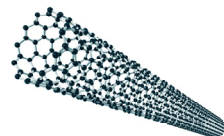
【場所】 名城大学天白キャンパス  
(オンライン併用ハイブリッド開催)

### 招待講演者

- |                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| 飯島澄男（名城大）          | 「脱炭素社会におけるカーボンナノチューブへの期待」       |
| 野田 優（早稲田大）         | 「カーボンナノチューブ合成技術の進展とエネルギー技術への応用」 |
| 片浦弘道（産総研）          | 「脱炭素社会を目指したカーボンナノチューブの構造分離技術」   |
| 泉田 涉（東北大）          | 「トポロジカル物質としてのカーボンナノチューブ」        |
| 柳 和宏（東京都立大）        | 「カーボンナノチューブの次元性と熱電物性」           |
| 畠 賢治（産総研）          | 「深層学習を利用したカーボンナノチューブ膜の特性予測」     |
| 齋藤直人（信州大）          | 「カーボンナノチューブ複合体の生体材料への応用」        |
| 橋本 剛<br>(名城ナノカーボン) | 「脱炭素社会を見据えたカーボンナノチューブ実用化の現状」    |



企画 大分類17 ナノカーボン  
世話人 丸山隆浩（名城大），守谷頼（東京大）



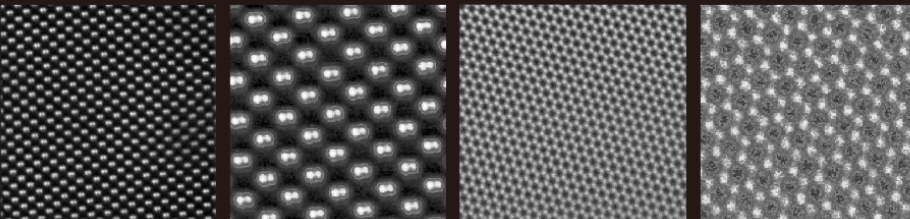
# 極微を観る

私たちJEOLグループは1949年に電子顕微鏡の開発・製造会社として設立されました。これからも電子顕微鏡のリーディングカンパニーとして、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、ライフサイエンスなどさまざまな分野に最適なソリューションを提供していきます。

## 原子分解能分析電子顕微鏡

### NEOARM JEM-ARM200F

“NEOARM”は、当社独自の技術で開発された冷陰極電界放出形電子銃（Cold-FEG）と高次の収差まで補正可能な新型球面収差補正装置（ASCOR）を標準搭載し、200 kVの高加速電圧だけでなく30 kVの低加速電圧においても原子分解能での観察を実現しました。

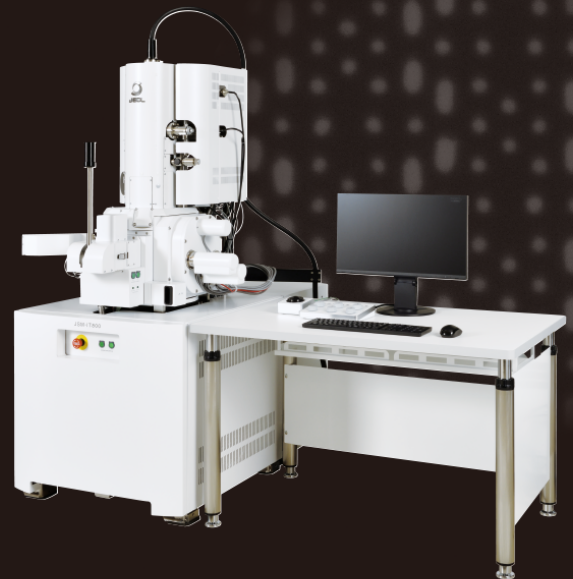


## ショットキー電界放出形走査電子顕微鏡

### JSM-IT800 Series

JSM-IT800は、これまで日本電子が開発してきた、高分解能観察から高速度元素マッピングまで可能な“インレンズショットキーPlus電界放出形電子銃”、次世代型電子光学制御システム“Neo Engine”、EDSとフルインテグレーションし、使いやすさを追求したGUI“SEM Center”を共通のプラットフォームとしています。また、SEMの対物レンズを置き換えることで、お客様の様々なニーズに応じた装置を提供します。

JSM-IT800には、対物レンズの違いにより、汎用FE-SEMであるHLバージョンと、より高分解能観察や分析を目的とするSHLバージョンが存在します。



本社・昭島製作所 〒196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 TEL:(042)543-1111(大代表) FAX:(042)546-3353  
www.jeol.co.jp ISO 9001・ISO 14001 認証取得

JEOLグループは、「理科学・計測機器」「産業機器」「医用機器」の3つの事業ドメインにより事業を行っております。  
「理科学・計測機器事業」電子光学機器・分析機器・計測検査機器 「産業機器事業」半導体関連機器・産業機器 「医用機器事業」医用機器